

高津区おはなしアーカイブ

●長岡 榮子 (ながおか えいこ) さん

昭和10年生まれ 83歳
川崎市高津区北見方在住



◆幼いころのこと

私は生まれた時からずっと北見方に住んでいます。7人兄妹で育ちました。兄、私、弟、妹、弟、妹、妹の順で、私は長女でした。本当はその上に3人いたのですが、幼いころに亡くなってしまいました。

食事は家族そろって箱膳で頂いていました。小さいころは台所の半分が土間で半分が板の間で、その板の間で食べていました。

やがて建て増しをしたときに、家族全員がそろって座れるような大きなテーブルを作ってもらいました。

父は瓦を作る仕事をしておりました。多摩川の河原の土が粘土質で瓦の材料にとてもいいのでこちらの地に住むようになったのです。最初は二子新地にいたのですが、

坂戸に引越し、その後北見方に移り住んだのです。

土を採掘して、こねて、整形して大きな窯で焼き上げる、そういう仕事です。屋根を葺くところまでやっておりました。昔からの日本瓦で銀色に光る瓦でした。

その仕事ができるのは神奈川県に2軒しかありませんでした。父がどこでどのようにその技術を習得したのか聞いておかなかったので残念に思っているんです。

作業をするため家の土地は結構広かったです。形成した瓦を乾燥させるために、真っ平な地面にずら一と並べておりました。

叔父や職人さんが数人一緒に働いていました。兄は身体が弱かったし、戦後は時代が変わってきて瓦の需要も減ったので、子ども達は誰も瓦の仕事を継がなかったんですが、叔父がとてもよく働く人で、後に瓦店を自分で立ち上げて営むようになりました。

すぐ下の弟が実家を継いで母と住んでいたんです。でも火事で実家が焼けて、その時に亡くなってしまいました。

◆小学校入学前

保育園や幼稚園はなかったです。小学校に上がる前には近所の友達と遊んでいました。多摩川の傍に住んでいた仲良しのお兄ちゃんの家で、馬跳び、はないちもんめなどをよくやりました。男女一緒にグループで遊んでいましたね。

瓦の材料となる土を掘った後の大きな穴には水が溜まって池になっていて、その周りでもよく遊んでいました。

小学校に上がる前のことですが、3番目の弟をおぶって、池の傍でおままごとをしていたんです。おもちゃの食器を洗おうとして、池の中央に向かって突き出していた細い栈橋の先端までいったら、弟をおぶったまま池に落ちちゃったんですよ。不思議なんですけれど沈みながらそのときの光景が良く見えているの…気が遠くなって、その後気が付いたときにはもう座敷に寝かされていましたけど。なんでも職人さんがたまたま近くで休憩していて助けてくださったんだそうです。

◆小学校（国民学校）

小学校は高津小学校です。そのころは国民学校と言っていました。40分くらいかけて歩いて通っていました。

1年の時（昭和16年12月8日）に戦争が始まったんです。でも戦争の影響はほとんどなくて、平和でした。ダンスやマラソンなどをやって、運動会なども普通に開かれていました。

低学年の間は男女が一緒に、高学年では1クラスだけ男女一緒に、他は男女別のクラスでした。小学六年の時に「ハレルヤ」を合唱したのがとても強く印象に残っています。先生が日本語の歌詞を黒板に書いてくださったの。

通学のときはセーラー服を着ていました。お友達もほとんどがセーラー服でした。高津小学校の生徒は広範囲から通って来ましたが、着物を着ていた人って記憶にないですね。男の子も洋服を着ていたと思います。

私は帽子が嫌いでね、いやいや被っていました。



小学校の時はセーラー服で通学しました

小学校のころによく遊んだのは、陣取りですね。二人で地面に釘をさして陣地を広げていくの。

夏は多摩川の浅瀬のところで泳いで遊びました。カエル泳ぎの練習をしたのを覚えています。河原は広々して砂利もきれいだったし、おままごとをしたり、蚊帳つり草や待宵草で遊びました。

水鳥はあまりいませんでしたが、お魚はいたみたいですね。家の池でも大きな鯉が釣れたことがありました。

多摩川で釣りをしている人はあまり見か

けませんでした。網で獲っていたみたいで
す。マルタって魚を貰って食べたこと
がありました。

あとね、白髭神社の境内に、木材の上に
トタン板を屋根のように被せて置いてあっ
てね、裸足でそれに登って遊んでいまし
たね。ただトタンを登るっていただけで
したけど、ツルツって滑ったりして、そ
れが面白くて面白くて、飽きずに遊
んでいました(笑)。

おもちゃを買ってもらった覚えはない
ですね。持っている子もいなかったし。

◆中学、高校時代

国民学校の後は新制中学になりましたが、
私は小学校卒業後、中学、高校は洗足学
園に行きました。洗足は女子中学で、そ
のころ女の子はほとんど洗足学園に行
きました。公立の中学は荒れていたから
心配だったと母が言っていました。我が
家から歩いて40分ほどでしたね。東
京から通っている方もいました。

男の子は新制中学へ行って、その後、
平間にあった工業高校に行く人が多
かったかな。

洗足学園は戦後移転して日本光学の工
場跡に建てられたんです。一学年に3
クラスあって、1クラスは50人ほど
でした。音楽は合唱が盛んでした。先
生は個性のあるいい先生が多かった
です。生徒を縛らない自由な校風で
した。最初のころは制服が決

まっていなくて、小学校の時と同じに
セーラー服を着ていました。中学2年
か3年の時に制服が決められたん
でしたね。

◆戦中、戦後の記憶

戦前はこの辺りでは桃を作っていた
んですが、戦争が始まってからは穀
物を作らなくちゃいけないってこと
で、みんな切られちゃいました。梨
は復活したけれど桃は復活しなかつ
たですね。

防空壕は最初母屋の土間のところに
掘ったんですが、水が出てくるので、
庭のほうに6帖ほどの広さを掘りな
おしました。防空壕に家財を運び込
んだりしてはしていません。家族が
入るためだけです。

隣の諏訪は何ともなかったんです
けど、北見方は正福寺のところまで
全部焼けたんです。何もなくなって
宮内まで眺められたそうですよ。親
戚の家も焼けたので、しばらく無
事だった我が家で暮らしていました。

父は出兵しなかったですね。叔父
は戦争末期のころに兵に出たそう
です。でも国内にいたまま終戦にな
ったそうです。

叔母さんが一度だけ会いに行けた
時に、小豆を煮てぼた餅を作って持
っていったんです。叔父さんは嘔
まずに飲み込むほどの勢いで召し
上がって、とっても喜んでいました
そうです。家には砂糖なんて全くな
かったのにどうやって工面したのか
しらね。

終戦は小学校5年生の夏でした。そ
んなにショックは感じませんでした。
戦争して

いるときから勝つなんて思えなかったですものね。

5年生になったころから、空襲が始まって全然学校に行けなくて、最初のころは地区ごとにお寺や神社に集まって先生が派遣されて来ていましたが、それもなくなって、ずっと家で待機していました。ただただ早く終わってほしかったです。

仲良しの友人の家が戦争で焼けちゃって、洗足学園の真向かいに仮屋で暮らしていて、その仮屋によく遊びに行きました。そのご近所に、とっても有名な彫刻家がおられました。

現在区役所の正面玄関にその方が創ったブロンズ像が設置されているそうですね。



「平和の憩い」・長江録弥

◆当時の食料、日用品事情

この辺は農家が多かったから食べ物に苦労はしなかったです。我が家でも畑を作っていましたね、家で採れたエンドウを先生に持ってってあげなさいって言われたんです。でも先生に贈り物をするなんてズルい

ことのように思えて、とても嫌だったんです。ところが先生がすごく喜んでくださってね。その時に、我が家は食べ物に困っていなかったけれど、そうじゃない家もあるんだなあって気づいたんです。

お米は採れなかったけど麦は採れたの。だから少しのお米に麦をいっぱい入れて炊いていました。お米と麦を混ぜて炊くと、麦が上のほうに浮いてお米が下の方に沈んで炊きあがるでしょう？母がね、お弁当を作る時に、下の方のお米のところを掬って入れてくれていたの。親心だったのねえ…。

小麦も採れたので、小麦粉にしてすいとなんかも食べていましたね。ほかには、卵も砂糖も入ってない、水と塩だけを混ぜて焼いた「のし焼き」というのもフライパンいっぱい焼いて切り分けておやつに食べました。

甘いものが何もなかったから、ジャガイモよりサツマイモを好んでいましたよ。少し甘いですものね。サツマイモはたくさん採れました。他所ではツルまで食べたという話も聞きましたが、家ではツルまでは食べていませんでした。

食べ物は配給制でしたが、家でも作物を作っていたから不自由はしませんでした。農家じゃないから供出もしなくてよかったんじゃないかな。

魚は行商が来ていましたからね、私が小さい頃のごちそうといたら、お刺身とサメの肉でした。サメの肉はね、白身魚みた

いな感じで骨もなくて柔らかくて美味しかったですよ。

学校の給食はなかったです。

買い物は溝口や二子などのお店に行っていました。誰かに頼んで買ってきてもらうこともあったみたいだし、御用聞きなんかも来ていたんじゃないかな。

戦争中は物がなかったから、ほとんど買い物はしなかったですね。二子新地の近くに太田屋という店があって、衣類や布類はそこで買っていました。歩いて15分か20分ほどで行けました。

衣類はね、古いもののほうが物がしっかりしていて良かったです。新しいものは生地がペラペラでだめでしたね。

◆お祭り

お祭りは北見方の白髭神社でやっていました。祭囃子は代々決まった家の人やることになっていました。

正福寺の近くの一軒家に住んでいる人で、「囃子のエイちゃん」で呼んでいたんですが、その家がいつも担当していました。毎年、お祭りが近づくとお囃子の練習をしている音が聞こえてきて、ああお祭りの時期が来たなと思ったものです。

お神輿は記憶に残っていませんね。なかったのかしら。お芝居はやっていましたよ。村芝居みたいなのをね。村の人がやる年と、本職がやる年とあって、すごくおもしろかったです。出店なんか出ていたかな

あ…お祭りっていうとお囃子のことしか思い出さないわね。

お祭りそのものより、お祭りの日の我が家のごちそうが楽しみだったわ。お赤飯、お煮しめ、てんぷらなどね。お正月と同じでした。

◆就職、結婚

学校を卒業してからは、川崎からバスで田辺新田にあった大きな電機工場に勤めました。水力発電の機械を作っている会社でした。入社した時、日本の役に立つ仕事ができるんだと思って嬉しかったです。

そのころ働く女性のことはBG（ビジネスガール）って呼ばれていました。

お給料は6,500円ぐらいだったんです。それが洗足学園の月謝と同額だと知って、無理して通わせてくれたんだなあって、親に感謝しました。

昭和40年、30歳の時に、職場で出会った人（と言っても他社の方でしたが）と、結婚しました。我が家はそういうことには全く干渉なくて自由でした。

挙式したのは大井町にあった普通の結婚式場です。ウェディングドレスを着たんですよ。お色直しはしなかったです。夫の会社の上司が仲人をしてくれました。

◆北見方への想い

昔から北見方は住みやすいところでした。遊ぶところも泳ぐところもいっぱいありましたものね。

昔、畑だったところが、すっかりなくなって、家が沢山建って、歩いていて時々浦島太郎のような気になるの。今の子どもたちはどこで遊べるのかしらね。

交通も便利だし、住みやすいのは今も変わりませんがね。もっと子どもが安心して遊べるような場所があるといいですね。

(平成30年7月10日取材)